

オーストリアに見る天皇報道

倉 田 稔

はじめに

1990年に日本で、明仁天皇の即位式が行われた。オーストリアでそれがどのように考えられたかを、3つの新聞報道から見てみよう。取り上げる新聞は、『サルツブルガー・ナハリヒテン』（中級紙）、『クーリエ』（下級紙）、『クロネン・ツァイトゥング』（最下級紙）である。

下級紙であればそれだけ大衆的となり、発行部数＝読者が多くなる。ここでは、その中・下級である新聞をとりあげてみた。こういう記事が最も多く大衆に読まれたであろうから、である。ただしこれらの新聞の読者が、この種のニュース、評論の類を読む率は、低いかもしれない。

『サルツブルガー・ナハリヒテン』 1990年11月10日

天皇は菊の王位につく

[伝統と現代立憲国家との間の日本の激しい論争]

ハンス＝ギュンター・クラウス SN 通信員、東京

11月12日に、日本の皇帝明仁は、タカミクラから菊の王位につくことを告げる。タカミクラは、丁度6mの高さであり、8トンの重い木造りで、漆と金で飾られており、古い帝都京都から東京へ飛行機で運ばれた。

その際、海部首相は来賓と、「一万年も、皇帝陛下万歳——天皇陛下、万歳」を三唱する。海部が、そのとき皇帝と同じ高さに立つことは、伝統が破れることなのである。62年前には、召された顯官が皇室の庭に赴き、皇帝裕仁を見上げて叫んだのである。天皇は、戦後憲法により単に「国民統合の象徴」であり、もはや神に等しい支配者ではないので、政府と宮内庁はこの変化と和解したのだった。

祭典の組織委員会は、万歳とタカミクラの使用への批判が大きいことを、殆んど公示しなかった。：[つまりその批判はこうである。]万歳は、それだけなら完全に余計なのだが、単に軍国主義的な添え味であるばかりでなく、海外からの顯人たちに、趣味が悪いとか全く感情を害すると感じられうる、という批判である。

「万歳」は、アジアを血生臭く征服する戦争での、皇帝の闘いの叫びであった。今日でも日本人の恐ろしい震えるような行為を思い出す。かつての戦争捕虜たちは、万歳を、飢餓、拷問、死の不安と結び付けたのだ。

タカミクラと、皇帝が由来するアマテラス女神との結合は、明らかに問題である。歴史的な理由で——19世紀まで即位礼は宮廷仏教的性格を持ち、今世紀に初めて神道的色彩をもった——、また憲法も、国家と宗教の分離のゆえに、それに反対している。それなのに、納税者は64,000万シリングの⁽¹⁾総費用を担っている。

もっと論議があるのは、いわゆる「ダイジョウサイ」（収穫奉納大祭）をめぐる論争である。宮廷の土地に独自にそのために建てられた宮で、皇帝明仁は11月22日に、新しく収穫された米を日本の神々に捧げ、国民の安泰のためにかれらと食事をし、豊穰を祈る。翌日の朝あけの少し前、

明仁は、皇家の先祖女神アマテラスと対話した後で、125代の日本皇帝として精神的に高まり、宮を去るだろう。今やまた彼は神になるのであった。

だがここで帝家の神道的伝統——天皇は、同時に最高の神道神官である——と、民主的な戦後憲法とがぶつかる。とくに、政府が宗教的式典を国家財政で支えるわけだから、なおさらである。

これは、憲法で宗教と国家とを分離したものと衝突する。これは、大阪で先月の初め裁判所に伝えられた告訴状にもある。日本の皇家の歴史で新しいことである。

また驚くべきで、穏やかでないのは、宗教と憲法上の側面をめぐるこの即位の議論が、この国の政治的なまた知的サークルで行われることである。日本人の大多数は黙っている。一方では、問題意識が少ないことを示す。他方でそれは確かに、一つの制度と、イデオロギーに深く根付いた不安の表現でもある。その制度は、太陽女神の神話から数百年も正統性が由来した、そしてそのイデオロギーは、今世紀の初めにアジアでの日本軍隊の攻撃戦争の基礎であった。1945年の破滅的な敗北の後をはじめ、皇帝裕仁は公に単に全く普通の人間だと、声明したのだった。

『クーリエ』 1990年11月13日

「日本は62年後に新皇帝を持つ！」(第1面)

(明仁天皇の写真が大きく載り、小さく美智子妃の写真もあり)

「全世界からの名士が即位式に来た。

輝かしい式典で、昨日、日本皇帝明仁が(上)⁽²⁾、妻美智子(右)⁽³⁾の同席で、菊の王位にのぼった。158の国々から国賓が来る。その中にはワルトハイム大統領⁽⁴⁾も、東京での祭礼に参加した。」

「皇帝明仁の即位についてクーリエに報道する。 ゲオルク・ブルーメ東京から」(5ページ)

「バンザイ——天皇よいつまでも！」(標題)

「丁度10万人が——そこには世界からの政治的名士が——、月曜日、皇帝明仁の即位に参列するために、東京の宮城に来た。日本の第125代の君主が、古式にのっとり、役についた。しかし第2次大戦で彼の父裕仁が「呪縛をといた」ためにやっと、というのではなく、神としてではなく、民主主義者としてと見える。」

「東京の天気は長いことよくなかったが、[この日は]晴れていた。もし新皇帝が、神に近いことを——彼の神の祖先は、2,600年前の言い伝えによれば、ある山から地上に降りてきた——はっきりした言葉で切り離さなかったならば、率直に言って疑いがのぼったであろう。彼は神々しい祖先と打ち合せをしたのだと。ところで明仁は、即位の言葉では疑いを生じさせなかった。憲法にそって行動し、彼の父が皇帝の時代に与えた良い例にそって行動する、そして国民の悩みと喜びを分かち合う、と声明した。それでも矛盾のある短い大仰な言葉があった。「彼の父の誤りを繰り返したくない」と、皇帝公園で日本の小旗を振っていた若者が評した。

ちょうど4万人の警官を、治安のために都に召集したので、東京では、もちろん本当のお祭り気分が殆ど盛り上げられなかった。皇居は重く武装された城だという印象を呼び起こした。地下鉄は毎朝早くから管理された。途中で自動販売機からコカ・コーラの缶を買おうする人はよく分かるはずだが、治安部隊が飲料自動販売機を皆ひっくるめて貼付けテープで閉じてしまった。警察は、テロリストが自動販売機の中に爆弾を隠せると、恐れたのである。ところで、これまで決して現れなかったいたずら小僧が、ごくまれだが、現れた。たしかに警察は夕方、29の突発事故があったと報じた。その中には、爆薬弾が無関係な建物に打ち込まれたという事件があった。だ

が捜査官は、それが大晦日の冗談のもくろみなのか、実際に狙撃者がやったのか、はっきり確認するのはむずかしい。

すでに朝の時間に、皇帝と皇后は宮殿で祭礼のキモノの着付けを長々しくしていた。即位式に行く前にも、明仁は、白装束でその日の出来事を神々に報告しなければならなかった。

重々しい装束で、彼は宮廷の祭壇にお辞儀をした。それは太陽女神アマテラスの東京座所である。

その間東京の都公園で、皇帝のから騒ぎへの反対者たちが、すでに集まった。「皇帝服従をやめよう」、「我々は臣下ではない」、「税金をもどせ」と、普通の主婦、青年、セクトの人々、急進左派からなる雑多な人々の言葉が叫ばれた。今日の国家行為への批判者が妨げようとすることは、国家と宗教の分離がされていないことである。皇帝が今日、太陽女神アマテラスの聖なる椅子にあがり、その後の式典の間に神々の近くの座をとるのだから、この即位式はすべて宗教的行為であり、それを公金で賄うことはできない、と。東京のある校長、コーイチ・オーシマは、およそそう論じている。

東京の都公園の興奮した皇帝批判者や、強力な警察召集部隊を除けば、東京の生活はいつもの普通の祭日のように流れた。大じょう祭の参加者以外の大抵の日本人は、テレビで生放送される公的式典で、時間をつぶしている。多くの人は、見事な——表向きは7,000万シリングかかっている——皇家の衣装しか見ていない。それもカブキを見て驚いているようにである。

昼の時間の即位式典は、きわめて簡単に短く行われた。音楽もファンファーレもなしに、明仁が宮殿の“国のホール”に現れ、妻が従う。そこには家族と政府長官がすでに待っており、彼は芸術的に創られた玉座にのぼった。単調な言葉で明仁は、そこから日本と世界に彼のお知らせを読み、そこで彼は自ら公的に天皇であると宣した。また政府長官海部俊樹の短い言葉が続いた、「日本国民は、国民の象徴として皇帝を仰ぎ見、そして新しいスタートをするでしょう、もっと開かれた開化された国になるために。」

ところで首相としては初めて、皇帝の前で三度手を挙げ、それに加えて「万歳」を唱えた。これは昔の戦争での、また皇帝への呼び声なのだ。皇帝を尊敬するという、古い深く根付いた日本の伝統が感じられる。

午後、それから皇帝行列が行われた。だがそれは、超巨大な警察の努力によって見物人の楽しみを台無しにしてしまった。各見物人のうしろに一人の警官が立っていた。誰も長たらしい荷物検査をさせられた。皇帝夫妻をのせた黒いロールス・ロイスがやっと通り過ぎた時、喚声が上がった。地下鉄の電気施設を監視するために呼ばれた東京の電気技師は、「大したことは起きなかった」と判断している。東京の歴史的1日は、大きな突発事故もなしに、終りに近づいている。新しい皇帝の時代は、無条件により良い時代ではない。多くの日本人はそれをなお知るべきであるようだ。」

『クローネン・ツァイトゥング』 1990年11月10日

「皇帝が神になる：日本の明仁、私的には君や僕と同じように、普通の人間である——ここで、美智子夫人と写真やアルバムを見ているが⁽⁵⁾——2,500人の国賓の下で、千年も続く式で、聖者になる。」(第1面)

4～5 ページ

「神風ボルシェヴィキは、皇帝の聖人化を挫折させようとする」[標題]

[小見出し]「1 日の世界の事件」

[小見出し]「日本赤軍は、古い秘儀のため、2,500 人の国賓のいる即位祭で、超テロルを計画している」

「来たる月曜日の、日本の皇帝が即位するけばけばしい式典は、まだ全く始まっていないが、東京ですでに初めの爆弾が裂裂した。家の屋根でロケット放射器が発見された。それは宮殿施設をねらっており、そこに内外国から 2,500 人の国賓が「世紀の祭典」に列席する——その人々は、米副大統領クェイル、プリンス・チャールスや、60 の国家元首、ボードイン国王からイスラエルの大統領、ワイツゼッカーやワルトハイム大統領に至るまで、である。

神経質になった日本政府は、10 日間（！）即位の国家行為と 125 代目の天皇の聖人化式を護るため、警官 3 万 7 千人という巨大部隊を動員した。日本の狂信的極端左翼と反君主主義者、超“赤軍”が、このスペクタクルに全面テロルの戦争をすると声明したからである。⁽⁶⁾

125 代天皇は生ける神となる

この神風ボルシェヴィキは大まじめに考えた狂気のテロルを、菊の王位につくのに 8 億シリングという高い出費がかかるので、行うのではなく、政府が秘密の儀式で皇帝を生き神にすることを拒否しなかったという状況のためである。明仁の父、裕仁は、敗戦後、神の立場を取り消した。とても大きくなった日本の新しい自己発見のしるしとして、国民宗教である神道儀式の聖なる最高神官としての皇帝の役割が、今再び誉めそやされている。

外国の国賓は、1 日だけ、世界的な即位という国家行為に臨む。それから数日は、式典は、もっと「日本的に」、宗教的になる。頂点は、即位の 10 日後の全く秘密のダイジョーサイ祭礼であり、そのために独自の寺が建てられた。

太陽女神との初夜

この祭礼は、日本の成立史の始まりに回帰する。皇帝は、1 人で 1 夜この寺院で過ごし、そのとき天から降りて来る太陽女神アマテラス、つまり日本の初めの母との結婚が行われ、そこで神になることができる。原始の豊穡神話が大切となる。日本の天皇は、皇帝であり同時に法王であるが、今日ではもちろん象徴的式典上の機能しかない。皇帝明仁自身は、たしかに千を超える人数の「宮内庁」から、自分の即位をどのように行いたいのかを、ほとんど問われない。」（4 ページ）

（4 ページに夫妻の写真があり）

「“私的”には 君や僕のように全く普通の人間：皇帝明仁と皇后美智子」の見出し。

（5 ページ）つづき

「日本の皇帝は、歴史上真の権力を決して握らず、常に名目を引合いに出された権力派閥であった。だから今世紀の 30 年代、40 年代でもそうであった。超国家的ファシスト的軍事派閥が、この屋根の下で犯罪的世界征服計画をたくらむために、皇帝の神性を頂点に押し上げた。陰險な計算をして、将軍たちは当時、皇帝裕仁の神祕的崇拜を頂点に押し上げた。

戦後、民主的憲法改正で、皇帝の役割は、いわゆる全ての日本人の本質を表すことだけに制限された。それゆえ第 125 代天皇、太陽女神アマテラスの第 125 代の後継者になる神祕的祭礼が、日

本国民の精神を分けている、2つの敵対的陣営に区分している。一方は、再び日本の大国的優越的狂気が成長する危険をそこに見ている。他方は、日本の国家構造の、そして地球での日本の存在資格の土台として、式典を頑固に擁護している。

日本が世界で技術のすばらしい国になるに依じて日本人は明らかに古い日本の価値の中の支えに、それだけ一層強く憧れる。それは、労働世界で際限なく努力することが日本人にとって有意義となるような価値である。この日本の皇帝祭礼は、いずれにせよ、印象深く思える。仏教・神道のような昔からの社会的宗教的価値の保持は、進歩の妨げではない。」

まとめ

以上紹介したように、オーストリアの新聞では、日本の天皇について、よく理解している。もちろんジャーナリストが書いているからであって、当然ではある。ただし、一般民衆は、あまり関心がないし、ほとんど理解はない。

注

- (1) 当時1シリングは13円。
- (2) 文章の上に写真。
- (3) 文章の右に写真。
- (4) 当時のオーストリア大統領。
- (5) 夫妻の写真が載っている。
- (6) 当時の日本の新聞によれば、次のような事件が起きた。

1990年11月1日の夜、新宿の警視庁統合待機寮で爆発があり、1人が死亡し、5人が怪我をした。

同2日、世田谷の警視庁独身寮で消化器が発見、その後爆発した。即位礼を前にした過激派の犯行と断定された。

11月12日、首都圏各地自衛隊施設に迫撃弾が撃たれた。陸上自衛隊では、習志野、大宮、東立川、の駐屯地。海上自衛隊では、厚木基地。航空自衛隊では百里基地。計5カ所であった。そして神社4カ所、寺院1カ所で火災が起きた。JR秋葉原ガード下からも出火した。